

政策立案検討会議
検討結果報告書

令和4年11月

1 検討事項

食品ロスの削減の推進に関する条例

2 政策立案検討会議委員（令和3年10月1日から）

桑田恭子（代表）、石田祥子（副代表）、平岡優一、山本昌宏、伊藤昭善（令和4年4月1日から）、三宅正明、大野耕平、藤井敏子、馬庭恭子（令和4年3月28日から）、碓井法明（令和4年3月31日まで）

3 検討の結果

- (1) 当会議における検討の結果、条例素案を作成することが適切と判断し、それを別紙のとおりまとめた。
- (2) (1)の条例素案に基づく条例制定議案が令和4年の12月定例会に提出される場合には、執行部における準備期間を考慮し、施行期日を「令和5年4月1日」とすることが適切と考える。

4 検討の経過

No.	日時	議題等	会議等の概要
1	令和3年 10月8日	<ul style="list-style-type: none">政策立案検討会議の運営について	<ul style="list-style-type: none">正副代表（桑田代表・石田副代表）を互選により選任食品ロスの削減の推進に関して、関係法令等の国の制度や本市の取組状況などについての調査研究を行っていくことを決定
2	10月20日	<ul style="list-style-type: none">食品ロスの削減に関する制度等について	<ul style="list-style-type: none">事務局から食品ロスの削減に関する制度等についての説明を受け、質疑を実施
3	11月10日	<ul style="list-style-type: none">本市の食品ロスの削減に関する取組状況について今後の進め方について（意見交換）	<ul style="list-style-type: none">執行部から本市の食品ロスの削減に関する取組状況についての説明を受け、質疑を実施食品ロスの削減に関する取組についての行政視察の実施を決定
4	11月26日	<ul style="list-style-type: none">本市の食品ロスの削減に関する取組状況を踏まえた課題について行政視察について	<ul style="list-style-type: none">本市の食品ロスの削減に関する取組状況を踏まえた課題について意見交換行政視察の視察先及び調査事項について意見交換
5	12月3日	<ul style="list-style-type: none">行政視察について	<ul style="list-style-type: none">行政視察の視察先、行程及び調査事項を決定（視察先：消費者庁・農林水産省・環境省・(株)コークッキング、東京都、京都市）

No.	日時	議題等	会議等の概要
	12月21日 ～22日	(行政視察【消費者庁・農林水産省・環境省・(株)コークッキング、東京都、京都市】)	【消費者庁・農林水産省・環境省・(株)コークッキング】 <ul style="list-style-type: none"> 国における食品ロスの削減に関する取組について 地方公共団体が行うべき食品ロスの削減に関する取組について 食品ロスの削減に関する取組に係る事業例について 【東京都】 <ul style="list-style-type: none"> 食品ロスの削減に関する取組について 【京都市】 <ul style="list-style-type: none"> 食品ロスの削減に関する取組について
	令和4年 1月17日	(ごみ分析調査【中工場】)	<ul style="list-style-type: none"> 本市の家庭系可燃ごみにおける食品ロスの実態を把握するためのごみ分析調査を実施
6	1月25日	<ul style="list-style-type: none"> 検討の方向性について(意見交換) 	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロスの削減の推進に関する調査研究や行政視察を踏まえ、政策提言ではなく条例案を検討していくことを決定 三宅委員から条例案の構成についての提案 事業ごみの実態調査の実施に向けて調整することを決定
7	2月7日	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロスの実態調査について 	<ul style="list-style-type: none"> 桑田代表から、調整の結果、新型コロナウイルスの影響等により、事業者の現場における事業ごみの実態調査の実施が困難であることの報告 桑田代表から各事業者における食品ロスの削減に向けた取組状況に係る資料の提示及びコンビニエンスストアにおける食品の売れ残りの実態の提示、石田副代表からスーパーマーケットにおける食品の売れ残りの状況についての報告
8	5月11日	<ul style="list-style-type: none"> 条例素案(たたき台)について 	<ul style="list-style-type: none"> 桑田代表の所属会派が変更となった旨の報告をした上で、引き続き代表の職を担うことを承認 伊藤委員、馬庭委員の加入の報告 正副代表が作成した条例制定に向けたスケジュール案を基に検討を進めていくことを決定 正副代表が作成した条例素案(たたき台)を基に、条例の内容について協議
9	5月19日	<ul style="list-style-type: none"> 条例素案(たたき台)について 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の会議(5/11)での修正箇所の確認を実施 前回の会議に引き続き、正副代表が作成した条例素案(たたき台)を基に、条例の内容について協議

No.	日時	議題等	会議等の概要
10	6月21日	・ 条例素案（たたき台）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議（5/19）で検討を要することとなった事項について、正副代表及び事務局による検討結果の報告を行った上で協議 ・ 前回の会議に引き続き、正副代表が作成した条例素案（たたき台）を基に、条例の内容について協議
11	6月27日	・ 条例素案（たたき台）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議（6/21）で検討を要することとなった事項について、正副代表及び事務局による検討結果の報告を行った上で協議 ・ 前回の会議に引き続き、正副代表が作成した条例素案（たたき台）を基に、条例の内容について協議
12	6月30日	・ 条例素案（たたき台）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までの会議（6/21, 27）で検討を要することとなった事項について、正副代表及び事務局による検討結果の報告を行った上で協議 ・ 前回の会議（6/27）に引き続き、正副代表が作成した条例素案（たたき台）を基に、条例の内容について協議
13	7月4日	・ 条例素案（たたき台）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までの会議（6/27, 30）で検討を要することとなった事項について、正副代表及び事務局による検討結果の報告を行った上で協議 ・ 前回の会議（6/30）に引き続き、正副代表が作成した条例素案（たたき台）を基に、条例の内容について協議
14	7月7日	・ 条例素案（たたき台）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議（7/4）で検討を要することとなった事項について、正副代表及び事務局による検討結果の報告を行った上で協議 ・ 各委員の意見を踏まえた条例素案を確定し、これにより執行部への意見照会を行うことを決定
	7月8日 ～28日	(執行部への意見照会)	・ 執行部に対し、条例素案を提示した上で文書により意見照会を行い、その回答を受領
15	8月2日	・ 条例素案について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 執行部から条例素案に対する意見の内容についての説明を受け、質疑を実施 ・ 正副代表が提案した各会派からの意見聴取の方法について協議し、提案どおり実施することを決定 ・ 執行部からの意見への対応について協議 ・ 正副代表で作成した前文案の内容について協議

No.	日時	議題等	会議等の概要
16	8月4日	・ 条例素案について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正副代表で検討した執行部からの意見への対応案を次のとおり提示した上で、これについて協議 <ul style="list-style-type: none"> ① 第2条（定義）第2項の「食品ロス（まだ食べることができる食品が廃棄されることをいう。第5条及び第11条において同じ。）がないよう」を「まだ食べることができる食品が廃棄されないよう」に修正 ② 第5条（消費者の役割）の「食品ロスを削減するため」を「食品ロスの削減のため」に修正 ③ 第7条（食品ロス削減推進計画）第3項及び第6項の「広島市食品ロス削減推進協議会」を「広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会」に修正 ④ 第10条（表彰）の「表彰を行うための施策を策定し、及び実施するもの」を「表彰を行うもの」に修正 ⑤ 第11条（実態調査等）の「食品ロスの実態」を「まだ食べることができる食品の廃棄の実態」に、「調査及び研究を推進するための施策を策定し、及び実施するもの」を「調査及び研究を推進するもの」に修正 ⑥ 第17条（食品ロス削減推進協議会）を削除 ⑦ 附則第3項として、次の規定を追加 <ul style="list-style-type: none"> 「3 広島市附属機関設置条例（昭和28年広島市条例第35号）の一部を次のように改正する。 別表市長の項中『広島市廃棄物処理事業審議会』を『広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会』に、『廃棄物処理事業の推進』を『食品ロスの削減など廃棄物の減量化及び資源化並びに廃棄物の適正処理』に改める。」 ・ 前回の会議（8/2）での委員の意見を踏まえて正副代表で修正した前文案について協議
17	8月10日	・ 条例素案について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議（8/4）での委員の意見を踏まえて正副代表で修正した前文案について協議 ・ 前回の会議に引き続き、正副代表で検討した執行部からの意見への対応案について協議

No.	日時	議題等	会議等の概要
18	8月17日	・ 条例素案について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議(8/10)での委員の意見を踏まえて正副代表で修正した前文案(2案のうちの1案)のとおりとすることを決定 ・ 前回の会議に引き続き、正副代表で検討した執行部からの意見への対応案について協議 ・ 正副代表で検討した執行部からの意見への対応案の一部(No.16の③, ⑥, ⑦)について合意に至らない中、一旦は、その対応案で修正したものを条例素案とし、これにより各会派への意見照会を行うことを決定
	8月17日 ～26日	(各会派への意見照会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各会派に対し、条例素案を提示した上で意見照会を行い、その回答を受領
19	9月2日	・ 条例素案について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各会派からの意見への対応について協議 ・ 各会派からの意見に基づき、条例素案を次のとおり修正すること*とし、その旨を議長に報告することを決定 <ul style="list-style-type: none"> ① 前文第4段落の「持続可能な社会を実現し」を「持続可能な社会を実現させ」に修正 ② 附則第3項の「重要な事項を審議」を「重要な事項を調査審議」に修正 <p style="text-align: center;"> { ※ No.16の③, ⑥, ⑦に該当する部分の修正を提案する意見については、その提案をした二つの会派以外の会派は原案(条例素案)に賛成していることを踏まえ、原案のとおりとすることを決定 } </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修正した条例素案により市民意見募集を行うことを決定
	9月8日	(各会派からの意見に対する回答に係る議長への報告)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各会派からの意見に対する回答を議長に報告
	9月15日 ～10月14日	(条例素案に対する市民意見募集)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条例素案に対する市民意見募集を行い、以下のとおり市民意見を受領 <p style="text-align: center;"> 意見提出者数：12人・団体 意見数：50件 </p>

No.	日時	議題等	会議等の概要
20	10月25日	<ul style="list-style-type: none"> 条例素案に対する市民意見への対応等について 	<ul style="list-style-type: none"> 条例素案に対する市民意見への対応について協議 正副代表が次のとおり提案した条例素案に対する市民意見への対応方針に係る検討の進め方について、提案どおりとすることを決定 <ul style="list-style-type: none"> 各意見の内容を基に分類し、意見の種類ごとの対応方針を決定した上で、当会議における検討を進める。 <ol style="list-style-type: none"> 意見の分類 <ol style="list-style-type: none"> 条文等の内容の変更、新たな条文の追加等の要望、提案等を行うもの 食品ロスの削減に関する施策等の実施の要望、提案等を行うもの 条例素案の内容等に賛同するもの 本市議会の活動の仕方について要望を行うもの 対応方針 <ol style="list-style-type: none"> 1の(1)の意見については、個別に検討し、対応方針を決定する。 1の(2)～(4)の意見に係る対応方針は、それぞれ次のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> 1の(2)の意見 <p>意見の内容については、本市の施策を策定・実施していく上での参考とするよう、それを担う執行機関（市長等）に情報提供をするとともに、本市議会においてその執行機関の事務執行を監視していく上での参考とする。</p> 1の(3)の意見 <p>意見の内容については、本条例を検討する上での参考とする。</p> 1の(4)の意見 <p>意見の内容については、本市議会が活動していく上での参考とする。</p> 条例素案前文第1段落について、「まだ食べることができる食品が、生産、製造、<u>流通</u>、販売、消費等の各段階において日常的に廃棄されている」に変更することを決定（変更箇所は下線部） 条例素案の題名及び施行期日について協議

No.	日時	議題等	会議等の概要
21	10月28日	<ul style="list-style-type: none"> 条例素案に対する市民意見への対応等について 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の会議（10/25）に引き続き、条例素案に対する市民意見への対応について協議 条例素案について、第5条（消費者の役割）及び第13条（食品廃棄物の再生利用の促進）をそれぞれ次のとおり変更することとし、それ以外の条項等については素案のままとすること等を決定 <ul style="list-style-type: none"> ① 第5条（消費者の役割）について、「消費者は、食品ロスの削減の重要性についての理解と関心を深めるとともに、日常生活の中で食品ロスの削減のために自らができることを考え、賞味期限（定められた方法により保存した場合において、期待される全ての品質の保持が十分に可能であると認められる期限をいう。第16条第2項第3号及び第3項第2号において同じ。）及び消費期限（定められた方法により保存した場合において、腐敗、変敗その他の品質の劣化に伴い安全性を欠くこととなるおそれがないと認められる期限をいう。第16条第3項第2号において同じ。）を正確に理解した上で、食品の購入、保存又は調理の方法を改善すること等により食品ロスの削減について自主的に取り組むよう努めるものとする。」に変更（変更箇所は下線部） ② 第13条（食品廃棄物の再生利用の促進）について、「本市は、食品廃棄物の再生利用を促進するために必要な施策を策定し、及び実施するものとする。」に変更（変更箇所は下線部） 前回の会議に引き続き、条例素案の題名及び施行期日について協議 条例素案に基づく条例制定議案が令和4年の12月定例会に提出される場合には、執行部における準備期間を考慮し、施行期日を「令和5年4月1日」とすることが適当とし、その旨を議長に報告することを決定

No.	日時	議題等	会議等の概要
22	11月4日	<ul style="list-style-type: none"> 条例素案に対する市民意見への対応等について 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の会議（10/28）に引き続き、条例素案に対する市民意見への対応について協議 条例素案に対する市民意見への対応方針を決定し※、その対応方針を基に作成した「市民意見に対する政策立案検討会議の考え方」を決定するとともに、市民意見を踏まえた条例素案を確定 <ul style="list-style-type: none"> ※ 前文第5段落の「<u>貧困対策等</u>を含めた幅広い分野にわたる施策の展開が求められる」という箇所及び第12条（未利用食品等を提供するための活動の支援等）第1項の「<u>貧困</u>、災害等により必要な食べ物を十分に入手することができない者に」という箇所について、下線部のような「<u>貧困</u>」に関する表現を盛り込むことにより食品ロスの削減と貧困対策とが同義のものであるとのイメージを刷り込むことになるため、これを盛り込むべきではないという市民意見を尊重し、「生活困窮対策」や「福祉対策」という表現に置き換えるなどの表現の見直しを改めて検討すべきであるとの意見が複数の委員から出されたが、協議の結果、素案のままの表現とすることで1人の委員以外の委員においては合意に至ったため、これを決定 前回の会議に引き続き、条例素案の題名について協議 条例素案の題名を「広島市食品ロス削減推進条例」とすることを決定 議長への検討結果の報告について、報告内容の方針を決定

広島市食品ロス削減推進条例（素案）

我が国においては、まだ食べることができる食品が、生産、製造、流通、販売、消費等の各段階において日常的に廃棄されている。

この現状は、とても「もったいない」ことであり、食品ロスの削減により、まだ食べることができる食品を廃棄することなく、可能な限り食品として活用していくことが重要となっている。

さらに、食品ロスの削減は、食品の生産等に関わる資源等の無駄な使用の抑制、地方公共団体における廃棄物処理に要する経費の軽減等につながることから重要である。

また、世界は今、持続可能な社会を実現させ、それを将来の世代に引き継ぐ上で重要な時期を迎えており、食品ロスの削減は、そのために誰もが取り組める身近な課題となっている。

このような状況の中、本市においては、広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中に位置付ける食品ロス削減推進計画等に基づいて食品ロスの削減に関する施策を実施しているが、今後は、食品ロスの削減に主眼を置いた施策の更なる充実とともに、貧困対策等を含めた幅広い分野にわたる施策の展開が求められる。

また、食品ロスの削減のためには、誰もが食品ロスを他人事ではなく我が事として捉え、これへの理解と行動の変革が広がるよう、本市、事業者、消費者等の多様な主体が連携して推進していくことが必要である。その上で、あらゆる主体において、食べ物を大切にす文化を再認識しながら、子どもたちに明るい未来を託せるよう覚悟を持って行動を変革していくことが求められる。

このような認識の下、本市における食品ロスの削減を推進し、もって持続可能な社会の実現に寄与することを目指し、この条例を制定する。

（目的）

第1条 この条例は、食品ロスの削減の推進に関する法律（令和元年法律第19号）の趣旨にのっとり、食品ロスの削減に関し、本市及び事業者の責務並びに消費者の役割を明らかにするとともに、本市の施策の基本となる事項を定めることにより、食品ロスの削減に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって持続可能な社会の実現に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この条例において「食品」とは、飲食料品のうち医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）第2条第1項に規定する医薬品、同条第2項に規定する医薬部外品及び同条第9項に規定する再生医療等製品以外のものをいう。

2 この条例において「食品ロスの削減」とは、まだ食べることができる食品が廃棄されないようにするための社会的な取組をいう。

(本市の責務)

第3条 本市は、食品ロスの削減に関し、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、本市の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の責務)

第4条 事業者は、食品ロスの削減の重要性についての理解と関心を深めるとともに、自らの事業活動に関し、食品ロスの削減について積極的に取り組むよう努めるものとする。

2 事業者は、自らの事業活動に関し、本市が実施する食品ロスの削減に関する施策に協力するよう努めるものとする。

(消費者の役割)

第5条 消費者は、食品ロスの削減の重要性についての理解と関心を深めるとともに、日常生活の中で食品ロスの削減のために自らができることを考え、賞味期限（定められた方法により保存した場合において、期待される全ての品質の保持が十分に可能であると認められる期限をいう。第16条第2項第3号及び第3項第2号において同じ。）及び消費期限（定められた方法により保存した場合において、腐敗、変敗その他の品質の劣化に伴い安全性を欠くこととなるおそれがないと認められる期限をいう。第16条第3項第2号において同じ。）を正確に理解した上で、食品の購入、保存又は調理の方法を改善すること等により食品ロスの削減について自主的に取り組むよう努めるものとする。

(関係者相互の連携及び協力)

第6条 本市、事業者、消費者、食品ロスの削減に関する活動を行う団体、学校その他の関係者は、食品ロスの削減の総合的かつ効果的な推進を図るため、相互に連携を図りながら協力するよう努めなければならない。

(食品ロス削減推進計画)

第7条 市長は、食品ロスの削減に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、食品ロスの削減の推進に関する法律第13条第1項に規定する食品ロスの削減の推進に関する計画（以下「食品ロス削減推進計画」という。）を定めるものとする。

2 市長は、食品ロス削減推進計画を定めるに当たっては、環境、消費生活、保健、福祉、産業振興、教育その他の食品ロスの削減に関連する分野における施策相互の有機的な連携が図られるよう配慮するものとする。

3 市長は、食品ロス削減推進計画を定めるに当たっては、あらかじめ、広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会の意見を聴くものとする。

4 市長は、食品ロス削減推進計画を定めたときは、遅滞なく、これを公表するものとする。

5 前3項の規定は、食品ロス削減推進計画の変更について準用する。

6 市長は、毎年、食品ロス削減推進計画に基づく施策の実施状況を広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会及び市議会に報告するとともに、これを公表するものとする。

(普及啓発、教育及び学習の振興等)

第8条 本市は、消費者、事業者等が、食品ロスの削減について、理解と関心を深めるとともに、それぞれの立場から取り組むことを促進するため、次に掲げる施策を策定し、及び実施するものとする。

- (1) 消費者に対し、日常生活の中で食品ロスの削減について意識し、そのために自らができることを考え、それを実践するための啓発及び知識の普及を図るために必要な施策
 - (2) 消費者に対し、環境、消費生活及び食育に関する施策と連携して食品ロスの削減についての啓発及び知識の普及を図るために必要な施策
 - (3) 消費者、事業者等に対し、先進的な取組、優良事例その他の食品ロスの削減に資する情報の適切な提供を行うために必要な施策
 - (4) 地域等において食品ロスの削減についての啓発及び知識の普及を行うことによる食品ロスの削減の推進を担う人材の育成を図るために必要な施策
 - (5) 児童、生徒及び学生に対し、学校の教科等を通じて、食品ロスの削減についての理解と関心及びその実践を促進するために必要な施策
 - (6) 前各号に掲げるもののほか、食品ロスの削減について、啓発及び知識の普及、教育及び学習の振興等を図るために必要な施策
- 2 前項の施策には、必要量に応じた食品の販売及び購入、販売及び購入をした食品を無駄にしないための取組その他の消費者と事業者との連携協力による食品ロスの削減の重要性についての理解を深めるための啓発が含まれるものとする。

(食品関連事業者等の取組に対する支援)

第9条 本市は、食品の生産、製造、販売等の各段階における食品ロスの削減についての食品関連事業者（食品の製造、加工、卸売若しくは小売又は食事の提供を行う事業者をいう。第12条第1項及び第16条第1項から第4項までにおいて同じ。）及び農林漁業者並びにこれらの者がそれぞれ組織する団体（以下「食品関連事業者等」という。）の取組に対する支援に関し、次に掲げる施策を策定し、及び実施するものとする。

- (1) 食品関連事業者等が食品ロスの削減に積極的に取り組むことを支援するために必要な施策
 - (2) 第16条各項に規定する取組を支援するために必要な施策
 - (3) 食品関連事業者等が消費者に対する食品ロスの削減についての啓発及び知識の普及に取り組むことを支援するために必要な施策
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、食品ロスの削減についての食品関連事業者等の取組に対する支援のために必要な施策
- 2 本市は、食品の生産から消費に至る一連の過程における食品ロスの削減の効果的な推進を図るため、食品関連事業者等の相互の連携の強化のための取組に対する支援に関し必要な施策を策定し、及び実施するものとする。

(表彰)

第10条 本市は、事業者、消費者、食品ロスの削減に関する活動を行う団体、学校その他の関係者の食品ロスの削減を促進するため、食品ロスの削減に関し顕著な功績があると認められる者に対し表彰を行うものとする。

(実態調査等)

第11条 本市は、食品ロスの削減に関する施策の効果的な実施に資するよう、まだ食べることができる食品の廃棄の実態に関する調査並びにその効果的な削減方法等に関する調査及び研究を推進するものとする。

(未利用食品等を提供するための活動の支援等)

第12条 本市は、食品関連事業者その他の者から未利用食品等まだ食べることができる食品の提供を受けて貧困、災害等により必要な食べ物を十分に入手することができない者にこれを提供するための活動（以下「未利用食品等を提供するための活動」という。）の円滑な実施を図るため、次に掲げる施策を策定し、及び実施するものとする。

- (1) 未利用食品等を提供するための活動に係る関係者相互の連携を強化するために必要な施策
- (2) 消費者及び食品関連事業者等に対し、未利用食品等を提供するための活動の意義及び役割についての啓発及び知識の普及を図るために必要な施策
- (3) 食品関連事業者等が未利用食品等を提供するための活動を行っている団体等に対して支援することを促進するために必要な施策
- (4) 貧困、災害等により必要な食べ物を十分に入手することができない者に対し、未利用食品等を提供するための活動を行っている団体等によって食品が適切に提供されるために必要な施策
- (5) 前各号に掲げるもののほか、未利用食品等を提供するための活動の円滑な実施を図るために必要な施策

2 前項に定めるもののほか、本市は、民間の団体が行う未利用食品等を提供するための活動を支援するために必要な施策を策定し、及び実施するものとする。

(食品廃棄物の再生利用の促進)

第13条 本市は、食品廃棄物の再生利用を促進するために必要な施策を策定し、及び実施するものとする。

(推進体制の整備)

第14条 本市は、食品ロスの削減に関する施策を総合的かつ効果的に推進するため、当該施策に係る部局相互の連携を図るための体制を整備するものとする。

(財政上の措置)

第15条 本市は、食品ロスの削減に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、必要な財政上の措置を講ずるものとする。

(食品関連事業者及び農林漁業者の取組)

第16条 食品関連事業者は、次に掲げる事項に取り組むよう努めるものとする。

- (1) 発注した商品（食品に限る。以下この号において同じ。）のこん包の資材に損傷又は汚損が生じた場合において、その資材でこん包された商品に損傷又は汚損が生じていないときは、その輸送又は保管に支障を来す場合その他の合理的な理由がある場合を除き、そのままの状態での納品することを許容すること。
- (2) 未利用食品等を提供するための活動の意義及び役割を理解し、その活動のために可能な範囲で未利用食品の提供を行うこと。

2 食品関連事業者のうち、食品の製造又は加工を行う事業者は、次に掲げる事項に取り組むよう努めるものとする。

- (1) 食品の製造又は加工の時に生ずる端材、形崩れの食品等を有効に活用すること等により、食品の原料又は材料を無駄にしないように利用すること。

- (2) 食品の製造又は加工及び出荷の工程において、食品を適正に管理し、その鮮度を保持すること。
- (3) 食品の製造又は加工の方法の見直し、その保存に資する容器包装の工夫等により賞味期限の延長を検討するとともに、賞味期限の表示（食品の製造又は加工の日から賞味期限までの期間が3月を超える場合のものに限る。）について年月表示等に改めることを検討すること。
- 3 食品関連事業者のうち、食品の卸売又は小売を行う事業者は、次に掲げる事項に取り組むよう努めるものとする。
 - (1) 納品期限の緩和その他の食品ロスの削減に資する商慣習の見直しを行うこと。
 - (2) 消費者に対し、賞味期限及び消費期限が近い食品から購入するよう呼び掛けるとともに、それを売り切るための工夫を行うこと。
- 4 食品関連事業者のうち、食事の提供を行う事業者は、それぞれの実情に応じて可能な範囲で、消費者に対し食事として提供された食品を食べ切るよう促すための工夫を行うことに取り組むよう努めるものとする。
- 5 農林漁業者は、次に掲げる事項に取り組むよう努めるものとする。
 - (1) それぞれの実情に応じて可能な範囲で、規格外又は未利用の農林水産物（食用に供されるものに限る。次号において同じ。）を有効に活用すること。
 - (2) 未利用食品等を提供するための活動の意義及び役割を理解し、その活動のために可能な範囲で規格外又は未利用の農林水産物の提供を行うこと。

附 則

- 1 この条例は、令和〇年〇月〇日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に定められている本市の食品ロス削減推進計画は、第7条第1項の規定により定められた食品ロス削減推進計画とみなす。
- 3 広島市附属機関設置条例（昭和28年広島市条例第35号）の一部を次のように改正する。

別表市長の項中「広島市廃棄物処理事業審議会」を「広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会」に、「廃棄物処理事業の推進に関する重要な事項を審議」を「食品ロスの削減など廃棄物の減量化及び資源化並びに廃棄物の適正処理に関する重要な事項を調査審議」に改める。
- 4 市長は、この条例の施行後、社会情勢の変化等を勘案し、必要があると認めるときは、この条例の施行の状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

食品ロスの削減の推進に関する法律と条例素案の比較表

<p>食品ロスの削減の推進に関する法律 (令和元年法律第19号)</p>	<p>広島市食品ロス削減推進条例(素案) (令和〇年広島市条例第〇〇号)</p>
<p>我が国においては、まだ食べることができる食品が、生産、製造、販売、消費等の各段階において日常的に廃棄され、大量の食品ロスが発生している。食品ロスの問題については、二十十五年九月二十五日の国際連合総会において採択された持続可能な開発のための二十三年アジェンダにおいて言及されるなど、その削減が国際的にも重要な課題となっており、また、世界には栄養不足の状態にある人々が多数存在する中で、とりわけ、大量の食料を輸入し、食料の多くを輸入に依存している我が国として、真摯に取り組むべき課題である。</p> <p>食品ロスを削減していくためには、国民各層がそれぞれの立場において主体的にこの課題に取り組み、社会全体として対応していくよう、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくことが重要である。また、まだ食べることができる食品については、廃棄することなく、貧困、災害等により必要な食べ物を十分に入手することができない人々に提供することを含め、できるだけ食品として活用するようにしていくことが重要である。</p> <p>ここに、国、地方公共団体、事業者、消費者等の多様な主体が連携し、国民運動として食品ロスの削減を推進するため、この法律を制定する。</p>	<p>我が国においては、まだ食べることができる食品が、生産、製造、流通、販売、消費等の各段階において日常的に廃棄されている。</p> <p>この現状は、とても「もったいない」ことであり、食品ロスの削減により、まだ食べることができる食品を廃棄することなく、可能な限り食品として活用していくことが重要となっている。</p> <p>さらに、食品ロスの削減は、食品の生産等に関わる資源等の無駄な使用の抑制、地方公共団体における廃棄物処理に要する経費の軽減等につながることから重要である。</p> <p>また、世界は今、持続可能な社会を実現させ、それを将来の世代に引き継ぐ上で重要な時期を迎えており、食品ロスの削減は、そのために誰もが取り組める身近な課題となっている。</p> <p>このような状況の中、本市においては、広島市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中に位置付ける食品ロス削減推進計画等に基づいて食品ロスの削減に関する施策を実施しているが、今後は、食品ロスの削減に主眼を置いた施策の更なる充実とともに、貧困対策等を含めた幅広い分野にわたる施策の展開が求められる。</p> <p>また、食品ロスの削減のためには、誰もが食品ロスを他人事ではなく我が事として捉え、これへの理解と行動の変革が広がるよう、本市、事業者、消費者等の多様な主体が連携して推進していくことが必要である。その上で、あらゆる主体において、食べ物を大切にす文化を再認識しながら、子どもたちに明るい未来を託せるよう覚悟を持って行動を変革していくことが求められる。</p> <p>このような認識の下、本市における食品ロスの削減を推進し、もって持続可能な社会の実現に寄与することを目指し、この条例を制定する。</p>
<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、食品ロスの削減に関し、<u>国、地方公共団体等の責務等</u>を明らかにするとともに、<u>基本方針の策定その他食品ロスの削減に関する施策の基本となる事項を定めること等</u>により、食品ロスの削減を総合的に推進することを目的とする。</p>	<p>(目的)</p> <p>第1条 この条例は、<u>食品ロスの削減の推進に関する法律(令和元年法律第19号)の趣旨にのっとり</u>、食品ロスの削減に関し、<u>本市及び事業者の責務並びに消費者の役割</u>を明らかにするとともに、<u>本市の施策の基本となる事項を定めることにより、食品ロスの削減に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって持続可能な社会の実現に寄与すること</u>を目的とする。</p>
<p>(定義)</p> <p>第二条 この法律において「食品」とは、飲食料品のうち医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(昭和三十五年法律第百四十五号)第二条第一項に規定する医薬品、同条第二項に規定する医薬部外品及び同条第九項に規定する再生医療等製品以外のものをいう。</p> <p>2 この法律において「食品ロスの削減」とは、まだ食べることができる食品が廃棄されないようにするための社会的な取組をいう。</p>	<p>(定義)</p> <p>第2条 この条例において「食品」とは、飲食料品のうち医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(昭和三十五年法律第145号)第2条第1項に規定する医薬品、同条第2項に規定する医薬部外品及び同条第9項に規定する再生医療等製品以外のものをいう。</p> <p>2 この条例において「食品ロスの削減」とは、まだ食べることができる食品が廃棄されないようにするための社会的な取組をいう。</p>
<p>(国の責務)</p> <p>第三条 国は、食品ロスの削減に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。</p>	<p>—</p>

<p style="text-align: center;">食品ロスの削減の推進に関する法律 (令和元年法律第19号)</p>	<p style="text-align: center;">広島市食品ロス削減推進条例(素案) (令和〇年広島市条例第〇〇号)</p>
<p>(<u>地方公共団体</u>の責務)</p> <p>第四条 <u>地方公共団体</u>は、食品ロスの削減に関し、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、<u>その地域</u>の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。</p>	<p>(<u>本市</u>の責務)</p> <p>第3条 <u>本市</u>は、食品ロスの削減に関し、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、<u>本市</u>の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。</p>
<p>(事業者の責務)</p> <p>第五条 事業者は、<u>その</u>事業活動に関し、<u>国又は地方公共団体</u>が実施する食品ロスの削減に関する施策に協力するよう努めるとともに、食品ロスの削減について積極的に取り組むよう努めるものとする。</p>	<p>(事業者の責務)</p> <p>第4条 事業者は、<u>食品ロスの削減の重要性についての理解と関心を深めるとともに、自らの</u>事業活動に関し、食品ロスの削減について積極的に取り組むよう努めるものとする。</p> <p>2 事業者は、<u>自らの</u>事業活動に関し、<u>本市</u>が実施する食品ロスの削減に関する施策に協力するよう努めるものとする。</p>
<p>(消費者の役割)</p> <p>第六条 消費者は、食品ロスの削減の重要性についての理解と関心を深めるとともに、<u>食品の購入又は調理の方法を改善すること等により</u>食品ロスの削減について自主的に取り組むよう努めるものとする。</p>	<p>(消費者の役割)</p> <p>第5条 消費者は、食品ロスの削減の重要性についての理解と関心を深めるとともに、<u>日常生活の中で食品ロスの削減のために自らができることを考え、賞味期限(定められた方法により保存した場合において、期待される全ての品質の保持が十分に可能であると認められる期限をいう。第16条第2項第3号及び第3項第2号において同じ。)</u>及び<u>消費期限(定められた方法により保存した場合において、腐敗、変敗その他の品質の劣化に伴い安全性を欠くこととなるおそれがないと認められる期限をいう。第16条第3項第2号において同じ。)</u>を正確に理解した上で、<u>食品の購入、保存又は調理の方法を改善すること等により</u>食品ロスの削減について自主的に取り組むよう努めるものとする。</p>
<p>(関係者相互の連携及び協力)</p> <p>第七条 <u>国、地方公共団体、事業者、消費者</u>、食品ロスの削減に関する活動を行う<u>団体</u>その他の関係者は、食品ロスの削減の総合的かつ効果的な推進を図るため、相互に連携を図りながら協力するよう努めなければならない。</p>	<p>(関係者相互の連携及び協力)</p> <p>第6条 <u>本市、事業者、消費者</u>、食品ロスの削減に関する活動を行う<u>団体、学校</u>その他の関係者は、食品ロスの削減の総合的かつ効果的な推進を図るため、相互に連携を図りながら協力するよう努めなければならない。</p>
<p>(食品廃棄物の発生の抑制等に関する施策における食品ロスの削減の推進)</p> <p>第八条 国及び地方公共団体は、食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(平成十二年法律第百十六号)その他の関係法律に基づく食品廃棄物の発生の抑制等に関する施策を実施するに当たっては、この法律の趣旨及び内容を踏まえ、食品ロスの削減を適切に推進しなければならない。</p>	<p style="text-align: center;">—</p>
<p>(食品ロス削減月間)</p> <p>第九条 国民の間に広く食品ロスの削減に関する理解と関心を深めるため、食品ロス削減月間を設ける。</p> <p>2 食品ロス削減月間は、十月とし、特に同月三十日を食品ロス削減の日とする。</p> <p>3 国及び地方公共団体は、食品ロス削減の日をはじめ食品ロス削減月間において、その趣旨にふさわしい事業が実施されるよう努めるものとする。</p>	<p style="text-align: center;">—</p>
<p>(財政上の措置等)</p> <p>第十条 <u>政府</u>は、食品ロスの削減に関する施策を<u>実施するため</u>必要な財政上の措置その他の措置を<u>講ずるよう努めるものとする</u>。</p>	<p>(財政上の措置)</p> <p>第15条 <u>本市</u>は、食品ロスの削減に関する施策を<u>総合的かつ計画的に推進するため、必要な</u>財政上の措置を<u>講ずるものとする</u>。</p>

<p style="text-align: center;">食品ロスの削減の推進に関する法律 (令和元年法律第19号)</p>	<p style="text-align: center;">広島市食品ロス削減推進条例(素案) (令和〇年広島市条例第〇〇号)</p>
<p>(基本方針)</p> <p>第十一条 政府は、食品ロスの削減に関する施策の総合的な推進を図るため、食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針(以下「基本方針」という。)を定めなければならない。</p> <p>2 基本方針は、次に掲げる事項について定めるものとする。</p> <p>一 食品ロスの削減の推進の意義及び基本的な方向に関する事項</p> <p>二 食品ロスの削減の推進の内容に関する事項</p> <p>三 その他食品ロスの削減の推進に関する重要事項</p> <p>3 内閣総理大臣は、基本方針の案につき閣議の決定を求めなければならない。</p> <p>4 内閣総理大臣は、前項の規定による閣議の決定があったときは、遅滞なく、基本方針を公表しなければならない。</p> <p>5 前二項の規定は、基本方針の変更について準用する。</p>	<p style="text-align: center;">—</p>
<p>(都道府県食品ロス削減推進計画)</p> <p>第十二条 都道府県は、基本方針を踏まえ、当該都道府県の区域内における食品ロスの削減の推進に関する計画(以下この条及び次条第一項において「都道府県食品ロス削減推進計画」という。)を定めるよう努めなければならない。</p> <p>2 都道府県は、都道府県食品ロス削減推進計画を定めるに当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和四十五年法律第百三十七号)第五条の五第一項に規定する廃棄物処理計画その他の法律の規定による計画であって食品ロスの削減の推進に関連する事項を定めるものと調和を保つよう努めなければならない。</p> <p>3 都道府県は、都道府県食品ロス削減推進計画を定めたときは、遅滞なく、これを公表するよう努めるものとする。</p> <p>4 前二項の規定は、都道府県食品ロス削減推進計画の変更について準用する。</p>	<p style="text-align: center;">—</p>
<p>(市町村食品ロス削減推進計画)</p> <p>第十三条 <u>市町村は、基本方針(都道府県食品ロス削減推進計画が定められているときは、基本方針及び都道府県食品ロス削減推進計画)を踏まえ、当該市町村の区域内における食品ロスの削減の推進に関する計画(次項において「市町村食品ロス削減推進計画」という。)を定めるよう努めなければならない。</u></p> <p>2 <u>前条第二項から第四項までの規定は、市町村食品ロス削減推進計画について準用する。この場合において、同条第二項(同条第四項において準用する場合を含む。)中「第五条の五第一項に規定する廃棄物処理計画」とあるのは、「第六条第一項に規定する一般廃棄物処理計画」と読み替えるものとする。</u></p>	<p>(食品ロス削減推進計画)</p> <p>第7条 <u>市長は、食品ロスの削減に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、食品ロスの削減の推進に関する法律第13条第1項に規定する食品ロスの削減の推進に関する計画(以下「食品ロス削減推進計画」という。)を定めるものとする。</u></p> <p>2 <u>市長は、食品ロス削減推進計画を定めるに当たっては、環境、消費生活、保健、福祉、産業振興、教育その他の食品ロスの削減に関連する分野における施策相互の有機的な連携が図られるよう配慮するものとする。</u></p> <p>3 <u>市長は、食品ロス削減推進計画を定めるに当たっては、あらかじめ、広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会の意見を聴くものとする。</u></p> <p>4 <u>市長は、食品ロス削減推進計画を定めたときは、遅滞なく、これを公表するものとする。</u></p> <p>5 <u>前3項の規定は、食品ロス削減推進計画の変更について準用する。</u></p> <p>6 <u>市長は、毎年、食品ロス削減推進計画に基づく施策の実施状況を広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会及び市議会に報告するとともに、これを公表するものとする。</u></p>

<p style="text-align: center;">食品ロスの削減の推進に関する法律 (令和元年法律第19号)</p>	<p style="text-align: center;">広島市食品ロス削減推進条例(素案) (令和〇年広島市条例第〇〇号)</p>
<p>(教育及び学習の振興、普及啓発等)</p> <p>第十四条 <u>国及び地方公共団体</u>は、消費者、事業者等が、食品ロスの削減について、理解と関心を深めるとともに、それぞれの立場から取り組むことを促進するよう、<u>教育及び学習の振興、啓発及び知識の普及その他の必要な施策を講ずるものとする。</u></p> <p>2 前項の施策には、必要量に応じた食品の販売及び購入、販売及び購入をした食品を無駄にしないための取組その他の消費者と事業者との連携協力による食品ロスの削減の重要性についての理解を深めるための啓発が含まれるものとする。</p>	<p>(普及啓発、教育及び学習の振興等)</p> <p>第8条 <u>本市</u>は、消費者、事業者等が、食品ロスの削減について、理解と関心を深めるとともに、それぞれの立場から取り組むことを促進するため、<u>次に掲げる施策を策定し、及び実施するものとする。</u></p> <p>(1) <u>消費者に対し、日常生活の中で食品ロスの削減について意識し、そのために自らができることを考え、それを実践するための啓発及び知識の普及を図るために必要な施策</u></p> <p>(2) <u>消費者に対し、環境、消費生活及び食育に関する施策と連携して食品ロスの削減についての啓発及び知識の普及を図るために必要な施策</u></p> <p>(3) <u>消費者、事業者等に対し、先進的な取組、優良事例その他の食品ロスの削減に資する情報の適切な提供を行うために必要な施策</u></p> <p>(4) <u>地域等において食品ロスの削減についての啓発及び知識の普及を行うことによる食品ロスの削減の推進を担う人材の育成を図るために必要な施策</u></p> <p>(5) <u>児童、生徒及び学生に対し、学校の教科等を通じて、食品ロスの削減についての理解と関心及びその実践を促進するために必要な施策</u></p> <p>(6) <u>前各号に掲げるもののほか、食品ロスの削減について、啓発及び知識の普及、教育及び学習の振興等を図るために必要な施策</u></p> <p>2 前項の施策には、必要量に応じた食品の販売及び購入、販売及び購入をした食品を無駄にしないための取組その他の消費者と事業者との連携協力による食品ロスの削減の重要性についての理解を深めるための啓発が含まれるものとする。</p>
<p>(食品関連事業者等の取組に対する支援)</p> <p>第十五条 <u>国及び地方公共団体</u>は、食品の生産、製造、販売等の各段階における食品ロスの削減についての食品関連事業者(食品の製造、加工、卸売若しくは小売又は食事の提供を行う事業者をいう。<u>第十九条第一項</u>において同じ。)及び農林漁業者並びにこれらの者がそれぞれ組織する団体(次項において「食品関連事業者等」という。)の取組に対する支援に関し<u>必要な施策を講ずるものとする。</u></p> <p>2 <u>国及び地方公共団体</u>は、食品の生産から消費に至る一連の過程における食品ロスの削減の効果的な推進を図るため、食品関連事業者等の相互の連携の強化のための取組に対する支援に関し必要な施策を<u>講ずるものとする。</u></p>	<p>(食品関連事業者等の取組に対する支援)</p> <p>第9条 <u>本市</u>は、食品の生産、製造、販売等の各段階における食品ロスの削減についての食品関連事業者(食品の製造、加工、卸売若しくは小売又は食事の提供を行う事業者をいう。<u>第12条第1項及び第16条第1項から第4項まで</u>において同じ。)及び農林漁業者並びにこれらの者がそれぞれ組織する団体(以下「食品関連事業者等」という。)の取組に対する支援に関し、<u>次に掲げる施策を策定し、及び実施するものとする。</u></p> <p>(1) <u>食品関連事業者等が食品ロスの削減に積極的に取り組むことを支援するために必要な施策</u></p> <p>(2) <u>第16条各項に規定する取組を支援するために必要な施策</u></p> <p>(3) <u>食品関連事業者等が消費者に対する食品ロスの削減についての啓発及び知識の普及に取り組むことを支援するために必要な施策</u></p> <p>(4) <u>前3号に掲げるもののほか、食品ロスの削減についての食品関連事業者等の取組に対する支援のために必要な施策</u></p> <p>2 <u>本市</u>は、食品の生産から消費に至る一連の過程における食品ロスの削減の効果的な推進を図るため、食品関連事業者等の相互の連携の強化のための取組に対する支援に関し必要な施策を<u>策定し、及び実施するものとする。</u></p>
<p>(表彰)</p> <p>第十六条 <u>国及び地方公共団体</u>は、食品ロスの削減に関し顕著な功績があると認められる者に対し、<u>表彰を行うよう努めるものとする。</u></p>	<p>(表彰)</p> <p>第10条 <u>本市</u>は、<u>事業者、消費者、食品ロスの削減に関する活動を行う団体、学校その他の関係者の食品ロスの削減を促進するため、食品ロスの削減に関し顕著な功績があると認められる者に対し表彰を行うものとする。</u></p>

<p style="text-align: center;">食品ロスの削減の推進に関する法律 (令和元年法律第19号)</p>	<p style="text-align: center;">広島市食品ロス削減推進条例(素案) (令和〇年広島市条例第〇〇号)</p>
<p>(実態調査等)</p> <p>第十七条 <u>国及び地方公共団体</u>は、食品ロスの削減に関する施策の効果的な実施に資するよう、まだ食べることができる食品の廃棄の実態に関する調査並びにその効果的な削減方法等に関する調査及び研究を推進するものとする。</p>	<p>(実態調査等)</p> <p>第11条 <u>本市</u>は、食品ロスの削減に関する施策の効果的な実施に資するよう、まだ食べることができる食品の廃棄の実態に関する調査並びにその効果的な削減方法等に関する調査及び研究を推進するものとする。</p>
<p>(情報の収集及び提供)</p> <p>第十八条 <u>国及び地方公共団体</u>は、食品ロスの削減について、先進的な取組に関する情報その他の情報を収集し、及び提供するよう努めるものとする。</p>	<p>(※第8条(普及啓発、教育及び学習の振興等)にて規定)</p>
<p>(未利用食品等を提供するための活動の支援等)</p> <p>第十九条 <u>国及び地方公共団体</u>は、食品関連事業者その他の者から未利用食品等まだ食べることができる食品の提供を受けて貧困、災害等により必要な食べ物を十分に入手することができない者にこれを提供するための活動が円滑に行われるよう、当該活動に係る関係者相互の連携の強化等を図るために必要な施策を講ずるものとする。</p> <p>2 前項に定めるもののほか、<u>国及び地方公共団体</u>は、民間の団体が行う同項の活動を支援するために必要な施策を講ずるものとする。</p> <p>3 <u>国</u>は、<u>第一項の活動のための食品の提供等に伴って生ずる責任の在り方に関する調査及び検討を行うよう努めるものとする。</u></p>	<p>(未利用食品等を提供するための活動の支援等)</p> <p>第12条 <u>本市</u>は、食品関連事業者その他の者から未利用食品等まだ食べることができる食品の提供を受けて貧困、災害等により必要な食べ物を十分に入手することができない者にこれを提供するための活動(以下「未利用食品等を提供するための活動」という。)の円滑な実施を図るため、次に掲げる施策を策定し、及び実施するものとする。</p> <p>(1) <u>未利用食品等を提供するための活動に係る関係者相互の連携を強化するために必要な施策</u></p> <p>(2) <u>消費者及び食品関連事業者等に対し、未利用食品等を提供するための活動の意義及び役割についての啓発及び知識の普及を図るために必要な施策</u></p> <p>(3) <u>食品関連事業者等が未利用食品等を提供するための活動を行っている団体等に対して支援することを促進するために必要な施策</u></p> <p>(4) <u>貧困、災害等により必要な食べ物を十分に入手することができない者に対し、未利用食品等を提供するための活動を行っている団体等によって食品が適切に提供されるために必要な施策</u></p> <p>(5) <u>前各号に掲げるもののほか、未利用食品等を提供するための活動の円滑な実施を図るために必要な施策</u></p> <p>2 前項に定めるもののほか、<u>本市</u>は、民間の団体が行う未利用食品等を提供するための活動を支援するために必要な施策を策定し、及び実施するものとする。</p>
	<p>(食品廃棄物の再生利用の促進)</p> <p>第13条 <u>本市</u>は、<u>食品廃棄物の再生利用を促進するために必要な施策を策定し、及び実施するものとする。</u></p>
	<p>(推進体制の整備)</p> <p>第14条 <u>本市</u>は、<u>食品ロスの削減に関する施策を総合的かつ効果的に推進するため、当該施策に係る部局相互の連携を図るための体制を整備するものとする。</u></p>
	<p>(財政上の措置)</p> <p>第15条 <u>本市</u>は、食品ロスの削減に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、必要な財政上の措置を講ずるものとする。</p> <p style="text-align: right;">【再掲】</p>

食品ロスの削減の推進に関する法律
(令和元年法律第19号)

広島市食品ロス削減推進条例(素案)
(令和〇年広島市条例第〇〇号)

(食品関連事業者及び農林漁業者の取組)

第16条 食品関連事業者は、次に掲げる事項に取り組むよう努めるものとする。

(1) 発注した商品(食品に限る。以下この号において同じ。)のこん包の資材に損傷又は汚損が生じた場合において、その資材でこん包された商品に損傷又は汚損が生じていないときは、その輸送又は保管に支障を来す場合その他の合理的な理由がある場合を除き、そのままの状態に納品することを許容すること。

(2) 未利用食品等を提供するための活動の意義及び役割を理解し、その活動のために可能な範囲で未利用食品の提供を行うこと。

2 食品関連事業者のうち、食品の製造又は加工を行う事業者は、次に掲げる事項に取り組むよう努めるものとする。

(1) 食品の製造又は加工の時に生ずる端材、形崩れの食品等を有効に活用すること等により、食品の原料又は材料を無駄にしないように利用すること。

(2) 食品の製造又は加工及び出荷の工程において、食品を適正に管理し、その鮮度を保持すること。

(3) 食品の製造又は加工の方法の見直し、その保存に資する容器包装の工夫等により賞味期限の延長を検討するとともに、賞味期限の表示(食品の製造又は加工の日から賞味期限までの期間が3月を超える場合のものに限る。)について年月表示等に改めることを検討すること。

3 食品関連事業者のうち、食品の卸売又は小売を行う事業者は、次に掲げる事項に取り組むよう努めるものとする。

(1) 納品期限の緩和その他の食品ロスの削減に資する商慣習の見直しを行うこと。

(2) 消費者に対し、賞味期限及び消費期限が近い食品から購入するよう呼びかけるとともに、それを売り切るための工夫を行うこと。

4 食品関連事業者のうち、食事の提供を行う事業者は、それぞれの実情に応じて可能な範囲で、消費者に対し食事として提供された食品を食べ切るよう促すための工夫を行うことに取り組むよう努めるものとする。

5 農林漁業者は、次に掲げる事項に取り組むよう努めるものとする。

(1) それぞれの実情に応じて可能な範囲で、規格外又は未利用の農林水産物(食用に供されるものに限る。次号において同じ。)を有効に活用すること。

(2) 未利用食品等を提供するための活動の意義及び役割を理解し、その活動のために可能な範囲で規格外又は未利用の農林水産物の提供を行うこと。

<p style="text-align: center;">食品ロスの削減の推進に関する法律 (令和元年法律第19号)</p>	<p style="text-align: center;">広島市食品ロス削減推進条例(素案) (令和〇年広島市条例第〇〇号)</p>
<p>(設置及び所掌事務)</p> <p>第二十条 内閣府に、特別の機関として、食品ロス削減推進会議(以下「会議」という。)を置く。</p> <p>2 会議は、次に掲げる事務をつかさどる。</p> <p>一 基本方針の案を作成すること。</p> <p>二 前号に掲げるもののほか、食品ロスの削減の推進に関する重要事項について審議し、及び食品ロスの削減に関する施策の実施を推進すること。</p> <p>(組織)</p> <p>第二十一条 会議は、会長及び委員二十人以内をもって組織する。</p> <p>(会長)</p> <p>第二十二条 会長は、内閣府設置法(平成十一年法律第八十九号)第十一条の二の特命担当大臣をもって充てる。</p> <p>2 会長は、会務を総理する。</p> <p>3 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。</p> <p>(委員)</p> <p>第二十三条 委員は、次に掲げる者をもって充てる。</p> <p>一 農林水産大臣</p> <p>二 環境大臣</p> <p>三 前二号に掲げる者のほか、会長以外の国务大臣のうちから、内閣総理大臣が指定する者</p> <p>四 食品ロスの削減に関し優れた識見を有する者のうちから、内閣総理大臣が任命する者</p> <p>2 前項第四号の委員は、非常勤とする。</p> <p>(委員の任期)</p> <p>第二十四条 前条第一項第四号の委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>2 前条第一項第四号の委員は、再任されることができる。</p> <p>(政令への委任)</p> <p>第二十五条 この章に定めるもののほか、会議の組織及び運営に関し必要な事項は、政令で定める。</p>	<p style="text-align: center;">—</p>
<p style="text-align: center;">附 則</p> <p>(施行期日)</p> <p>第一条 <u>この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。</u></p>	<p style="text-align: center;">附 則</p> <p>1 <u>この条例は、令和〇年〇月〇日から施行する。</u></p> <p>2 <u>この条例の施行の際現に定められている本市の食品ロス削減推進計画は、第7条第1項の規定により定められた食品ロス削減推進計画とみなす。</u></p> <p>3 <u>広島市附属機関設置条例(昭和28年広島市条例第35号)の一部を次のように改正する。</u> 別表市長の項中「<u>広島市廃棄物処理事業審議会</u>」を「<u>広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会</u>」に、「<u>廃棄物処理事業の推進に関する重要な事項を審議</u>」を「<u>食品ロスの削減など廃棄物の減量化及び資源化並びに廃棄物の適正処理に関する重要な事項を調査審議</u>」に改める。</p> <p>4 <u>市長は、この条例の施行後、社会情勢の変化等を勘案し、必要があると認めるときは、この条例の施行の状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。</u></p>